

麦作情報 No. 4

令和2年3月26日
西松浦農業改良普及センター

1. 気象概況

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
3月	4	9.6	11.0	14.7	16.8	4.6	5.0	29.3	0.5	24.0	38.4
	5	10.2	13.5	15.2	20.4	5.3	6.7	28.5	0.0	24.0	45.1
	6	10.8		15.9		5.9		31.9		30.3	
4月	1	11.8		17.1		6.6		28.3		27.9	
	2	12.8		18.1		7.6		30.7		29.2	
	3	13.6		19.0		8.4		30.6		29.7	
	4	14.4		19.9		9.2		31.2		30.0	

- 平均気温は、1月2半旬～2月6半旬は平年と比較し2～5℃程度高く推移しており、3月1半旬以降は平年並み～3℃程度高く推移している。
- 降水量は、12月以降の断続的な降雨により、12月～2月までの降水量合計は475mm（平年対比201%）とかなり多くなった。（12月：144.5mm（平年対比226%）、1月：191mm（平年対比244%）、2月：139.5mm（平年対比148%））
- 日照時間は、3月2半旬までは平年並み～少ない傾向で推移したが、3月3半旬以降多照傾向で推移している。
- 福岡管区気象台の1ヶ月予報（3月26日発表）：平年と同様に晴れの日が多い予報。
向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率40%、降水量は多い確率40%、日照時間は少ない確率40%の予報。

2. 生育概況

- 気温が平年よりかなり高く推移しているため、出穂は平年より早くなっている。
- 断続的な降雨により圃場に長時間滞水した圃場では、下葉の黄化などの湿害が散見される。
- 気温が高く生育が早かったことで網斑病の発生が早く、また降水量が多かったことで病気の感染拡大が進み、網斑病が多発している圃場が散見される。
- 管内の出穂状況は以下のとおりである。

品種	市町	播種期 (月/日)	出穂期 (月/日)
サチホゴールデン	南波多町	11/10	3/8
		11/15	3/16
	松浦町	11/27	※4/3頃
煌二条	二里町	11/10	3/3
		11/21	3/17
	松浦町	11/27	※3/30頃

※予想値であり、気象条件によって前後するため注意。

3. 今後の管理

1) 肥培管理

- 播種時期により管理が異なるため、下記を参照にする。
※地力がある過繁茂傾向の圃場（堆肥連用田など、令和元年産麦で倒伏した圃場等）では、麦の生育量および葉色から判断して施用量を減じるなど調整を行う。

① 12月下旬～1月上旬播種

- 茎立ち期を迎えている。
 穂肥を施用していない圃場は速やかに穂肥を施用する。

2) 排水対策

- 12月中旬以降の断続的な降雨により長期滞水した圃場では下葉の黄化が散見される。今後、湿害での根痛みにより枯れ熟れし、成熟期が早まる恐れがある。
- 今後の降雨による根痛みを回避するため、排水口と畝溝がつながっているか確認し、場合によっては排水溝の増設や付近の障害物の除去を行い、降雨後の停滞水の回避に努める。

3) 病害虫防除

○ 網斑病

- 近年、網斑病の感染が拡大傾向にあるため、薬剤防除を徹底する。
- 本年は、気温が高く推移しており、生育が進んでいるため網斑病の発生が例年よりかなり早く、さらに多発傾向にある。特に11月中旬播種などの早播きの圃場ではその傾向が強い。
- 網斑病が多発した場合、収量が**3割減収**したとの報告がある。
- 現在、網斑病の多発生がみられる圃場においては茎立ち期にチルト乳剤、出穂期にシルバキュアフロアブルによる防除を行う。
（※チルト乳剤の大麦に対する使用回数は1回までなので、農協のヘリ防除を利用する場合は、出穂期頃のチルト乳剤散布となるため使用回数制限により茎立ち期にチルト乳剤の散布はできない。その場合は、茎立ち期にシルバキュアフロアブルを散布するなどの対応を検討する。なお、チルト乳剤およびシルバキュアフロアブルの使用にあたっては、網斑病に対する無人航空機による散布の登録はないことに注意する。）



写真1 大麦網斑病の病斑

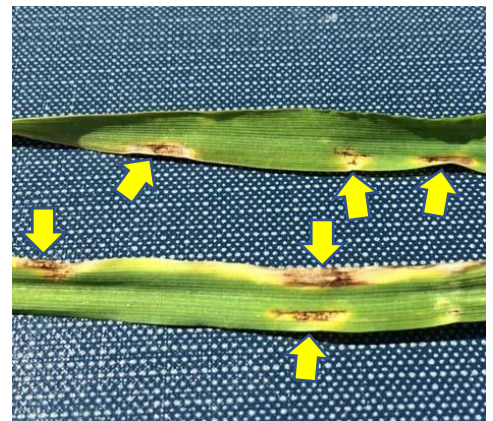


写真2 大麦網斑病の病斑

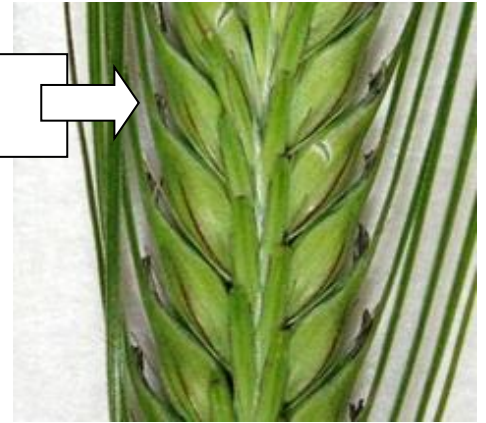
【防除薬剤使用基準】（対象作物は大麦）

薬剤名	適用病害虫	希釈倍数	10aあたり 散布量	使用時期	使用回数	散布方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000倍	60～150L	収穫21日前まで	1回	散布
シルバキュアフロアブル	網斑病	2000倍	60～150L	収穫14日前まで	2回	散布

○赤かび病

- ・麦の品質や収量の低下を防ぐため、薬剤防除を徹底する。
- ・大麦の防除時期は、葯殻抽出始め（出穂期の約2週間後）頃となる。

葯殻が、大麦の芒の下に出てくる時期(出穂期の約2週間後)
 ※葯殻とは開花受粉後に外側に押し出される葯の残骸のことである



- ・赤かび病多発生の場合は、葯殻抽出期防除の1週間後に2回目の防除を実施する。
 - ・また、気温の上昇に伴い、出穂から開花や葯殻抽出までの期間は早まるので、注意する。
- 必ず農薬登録を遵守し、**収穫前日数に留意して**農薬散布に努める。

※葎立ち期にチルト乳剤を散布した圃場では、薬剤の選定に注意する。

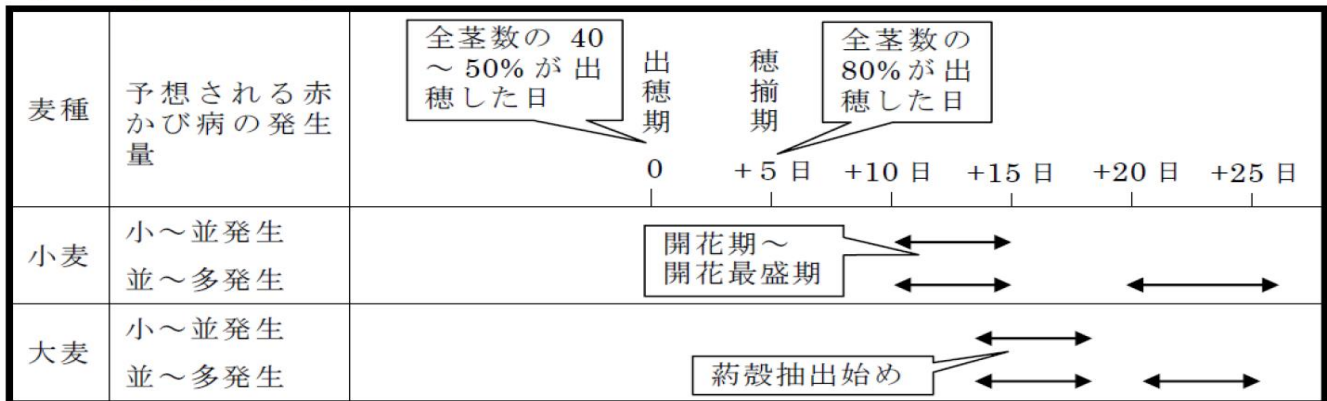
(チルトやトップジンは大麦に対して1回しか使用できないので、赤かび病防除を2回実施する場合はシルバキュアフロアブルなどの薬剤を選定する必要がある。

【防除薬剤使用基準】（対象作物は大麦）

薬剤名	適用病害虫	希釈倍数	10aあたり 散布量	使用時期	使用回数	散布方法
チルト乳剤	赤かび病	1000 ~2000倍	60~150L	収穫21日前まで	1回	散布
		8倍	800ml			無人ヘリ
シルバキュア フロアブル	赤かび病	2000倍	60~150L	収穫14日前まで	2回	散布
		16倍	0.8L			無人ヘリ
トップジンM 水和剤	赤かび病	1000 ~1500倍	60~150L	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以 降は1回以 内)	散布
トップジンM 粉剤DL		—	4kg	収穫14日前まで		散布
トップジンM ゾル		1500倍	60~150L	収穫14日前まで		散布
		8倍	0.8L	収穫21日前まで		無人ヘリ

- ・**トップジンM水和剤は、収穫前30日までの使用となっているので注意する。**

赤かび病の防除適期



注1) 出穂期とは全茎数の40~50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 小麦の開花期とは50%の穂が開花、開花最盛期とは80%の穂が開花した日。

注3) 大麦の葯殻抽出始めとは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。

注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法（収穫前日数）に特に注意する。

注5) 矢印は防除適期を示す。

4) 鳥獣害対策（カモによる食害）

酸性障害については、麦作情報 No.2 を参照。

（西松浦農業改良普及センターHP にも掲載しています。）

5) 酸性土壌による障害

酸性障害については、麦作情報 No.1 を参照。

（西松浦農業改良普及センターHP にも掲載しています。）

R2年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値 (伊万里)

西松浦農業改良普及センター

